

「新学部スタートと130周年記念誌発刊に向けて」

有朋会会長 宮尾正隆

有朋会は、明治17年(1884)佐賀県師範学校が創設された4年後の明治21年(1888)に発足。同窓会名を「有朋会」と名称して127年間引き継がれ、現在に至っています。その間、昭和24年(1949)に佐賀大学教育学部が生まれ、平成8年(1996)に文化教育学部へと引き継がれています。

平成28年(2016)4月には、文化教育学部が「教育学部及び芸術地域デザイン学部」に生まれ変わる予定です。

「教育学部」には、学校教育課程の中に「幼小連携教育コース」と「小中連携教育コース」が置かれます。また、「幼少連携教育コース」には、幼少発達教育専攻と特別支援教育専攻が設けられます。「小中連携教育コース」には、初等教育主免専攻と中等教育主免専攻が設置されます。そして、縦断的で横断的な連携教育に置ける学びに対応できるような学部になる予定です。

新設の「芸術地域デザイン学部」には、「地域デザインコース」と「芸術表現コース」が置かれます。この二コースの中には、キュレーション、フィール

ドデザイン、地域コンテンツデザインや美術・工芸、有田セラミックの分野が予定されています。中学校美術や高等学校美術、工芸の教員免許や学芸員の資格も取得できる予定です。地域等に貢献できる、幅広い人材育成をめざした学部を誕生させる予定です。

また、平成28年(2016)度からは、教職大学院(学校教育学研究科)に、授業実践探究コース、子ども支援探究コース、教育経営探究コースが開学する予定です。なお、以上の計画は、文部科学省に設置申請中のため、内容が変更になることもある段階です。

ところで、有朋会では、昭和63年(1988)に100周年の記念誌を発刊しましたが、平成30年(2018)には130周年を迎えることとなります。文化教育学部が廃止されることもありますので、現在、130周年の記念誌発刊を計画しているところです。学部や有朋会に関する資料等ありましたら提供をお願い致します。

また、今年、終戦後70年を迎える年です。昭和18年学徒動員令により軍隊や軍需工場等に動員され、犠牲になられた方々も多くおられます。歳月は経ちましたが、戦時下でお亡くなりになった方や学徒動員に徴集された方々の資料等も収集し、記録に残しておきたいと思っています。つきましては、資料や情報の提供等を巻末の有朋会事務局までよろしくお願い致します。

今まさに、佐賀大学のみならず、全国の大学において、少子化等による大学改革が行われようとしています。母校の生き残りは、これまで以上に、大学と同窓会及び地域との連携が不可欠になっています。有朋会会員のみなさまのさらなるご協力とご支援を切にお願いいたします。





35人全員で最高かつ最偉な1年へ

H17卒 旧唐津支部 小倉 美佐枝

今年度、担任する6年生、35人のわが子たち。始業式の日、最後の1年はどこにも胸を張って自慢できる「最高」かつ「最偉」な学級にすることを私は宣言しました。ただの最高ではありません。35人全員が卒業の時、「ああ！この1年本当に偉せだった！」と思えるものにしたのです。子どもたちにとって、6年生という時間は一生に一度しかありません。だからこそ、宝物のような時間を過ごしてほしいのです。

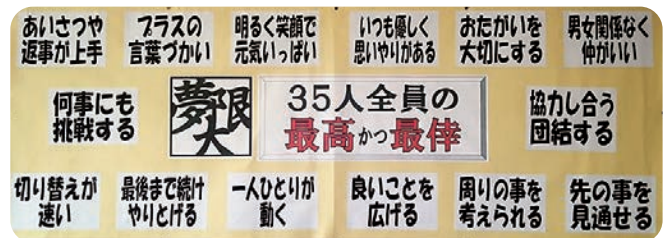
私は、子どもたちにいつも「しあわせ」を「偉せ」と書いています。それは、1人で「幸せ」に思うよりも、仲間（人）とともに気持ちを分かち合う「偉せ」の方が何倍も何十倍もしあわせだと思うからです。

最高かつ最偉になるためには、たった一人の誰かではなく、一人一人が努力を織り重ねていくことが不可欠です。そのために、私自身も全力でがんばります。もちろん、弱音を吐いてもいい、失敗してもいい。そのような時こそ、助け愛、励まし愛、支え愛をする。絶対に35人全員で学級を作り上げていく

のだということを忘れないためにも、子どもたちと考えた行動目標を教室の前面に掲示しています。

6年2組の教室では、毎朝、元気なあいさつが響き合います。明るく風通しが心地良い、あたたかな教室で、子どもたちが登校してくるのを待つのも私の日課です。子どもたちの表情や声色を見たり、たわいもない話で笑い合ったりしながら、子どもたちの細かな成長を見つけるようにしています。子どもたちが居てくれるおかげで、私も元気になることができます。

学級は第二の家族。35人全員が卒業するその時まで、しっかりと成長を見届けたいと思います。



身辺雑記

S57卒 県立私立支部 永田 彰 浩

「2008年M-1グランプリ」優勝の実力派お笑いコンビ「NON STYLE」の井上裕介に関する新聞記事が目にとまった。彼は、吉本興業の「ブサイクランキング」において3年連続第1位ながら、自分自身を「男前」と言い切るナルシストキャラで知られている。「勘違い男」としての悪評は高いが、本人の容姿とは正反対のハンサムな言動が至って好感を呼んでいるようだ。彼は「ネガティブよりポジティブの方がハッピーになれる」と、決して折れないポジティブ思考を全面に押し出しながら、今日もどこかでイケメン“ふう”のポーズを決めている。

「ポジティブ」とは、物事を肯定的な方向に捉えるプラス思考の概念である。近年では、「ポジティブアプローチ」や「ポジティブ心理学」としても注目を集めている。

一般的な傾向として、成功するには「弱み」を克服することが重要だと考えがちであるが、「強み」に注目することで成功に導くことも可能であ

る。高間邦男著『組織を変える「仕掛け」』では、「不足」に注目する「ギャップアプローチ」と、組織や人の「強み」や「価値」に焦点をあてる「ポジティブアプローチ」の違いについて論じられている。「ポジティブな感情が、創造的な問題解決には効果的だ。」「ポジティブアプローチは、人々の強みの連携を生み出すことでより高い成果をつくり出す。」「ギャップアプローチで危機感をおり続けて人々を動かしていると、心身症のリスクを高める。」等、示唆に富んだ内容である。

私たちは、教育現場において、性急に結果を求める余り「ギャップアプローチ」を過信し、却って子どもたちを追い込んではいないだろうか。現代社会において、情報化、グローバル化が加速されていく中、教育界では、「アクティブ・ラーニング」が注目され、その導入が急がれている。人や組織の「強み」に着目した「ポジティブアプローチ」による教育実践は、学校教育の閉塞感を取り除いてくれるのではないだろうか。



教育に無限の可能性を

H4卒 小城・多久支部 福田 純子

新生児聴覚スクリーニング検査で息子の難聴が分かり、たくさんのお祝い言葉に素直に喜べなかった自分が忘れられません。いろいろな悩みや辛さなどを語れるようになるまでには、長い長い時間がかかったように思えます。息子が生まれた2002年7月1日に佐賀県新生児聴覚スクリーニング検査のモデル事業が始まりました。行政、医療、教育、それぞれの立場のたくさんの人たちが息子や涙もろかった私を「あせらず、くらべず、あきらめず」と、心から支えてくださいました。その支えに励まされ、2006年の春に等身大の小さな親の会「ダンボの会」を立ち上げました。

幼少期は、自分を奮い立たせながらの連続で、様々な専門機関に足を運び、言葉を育むためと必死になって療育に専念してきた日々は、長かったようで短くもあります。小学校の入学式には、騒音を防ぐために教室のいすや机にテニスボールをつけて迎えてくださいました。卒業式は、スクリーンに文字を大きく映し出してくださいまし

た。物心ついた時から、主に「見る」ことを通して理解してきた息子にとっては、視覚による支援は本当に有効です。

息子の誕生から13年。「障がい」があろうとなかろうと、息子の存在は、かけがえのない存在です。今、振り返ると息子の出産が知らなかったことへの扉をひとつ開き、学ぶべき時と学ぶべき場を与えてもらったような気がします。出産当時、唯一の支えとなった言葉が、「教育に無限の可能性を」という言葉です。まだまだ母親に全責任を問われるような時代に「障がい」のある子を産み育てるには、女性が仕事をやめると、悩む人は少なくない時代です。しかし、私はたくさんの人に支えられ、教職員として仕事を続けることができました。これからも自分自身の経験を生かし、親として、教職員として、人として、気づかなかったことに気づき、知らなかったことを知り、より深く考え、自分の人権課題と他の人の痛みを重ねて考えられるような人になりたいです。



久しぶりの学校現場で思ったこと

S36卒 藤津・鹿島支部 杉原 潔

ひょんなことから初任者の指導教員を仰せつかった。年齢を考えて随分固辞したのだが、教科指導の該当者がいないと言われてお礼奉公に踏み切った。中学校である。

○生徒の声が大きい。赴任式の時、男子が口を大きく開けて校歌で迎えてくれた。あいさつの声も小気味よい。先生からの臨時的な指導かなとも思ったが、なかなかどうして、小手先の技ではなかった。気分がよかった。新1年生は5月末の体育大会の応援練習等で先輩に鍛えられることだろう。6月の紫陽花の頃、1年生の少し野太いあいさつが聞けると思うと楽しみが増えた。

○ノーチャイムである。チャイムの音のうるさい学校を何校も経験してきたので、朝から静かな学校は有難い。時計を見て行動を起こさなければならぬ。特に新1年生には、4、5月の指導がポイントのようだ。教師全員の指導が続いている。

○ICT利活用指導の推進は、県教委が打ち出して

いる。現役時代にはやっとならパソコンで文書を作成するくらいだったので、これが一番の心配事であった。各教室には電子黒板が設置され、各教科で利用されているようだが、初任者にはまだそこまで手が回らない。資料を駆使する教科ではないので、1学期は、チョークと黒板でじっくり授業に取り組みせ、利活用は2学期からの取り組みにしよう。

○本町では4月から児童・生徒の給食費を無償とした。画期的なことである。給食費の徴収には苦い経験がある。係が何度出向いても払ってもらえない。そして、「うちの子どもには給食は食べさせないでいいから。」と。現場でそんなことができるわけがない。とうとう払わずに卒業した。子どもに食を与えるのは疑いようのない親としての義務だと思っただけだが、本町では苦い思いをすることがなくなった。



あらかず喜び、つながる喜び

S62卒 佐賀市西部支部

樫村圭子

「おお!」「うわあ!」「やったあ!」自然と沸き起こる歓声と拍手。子どもたちと共に版画に取り組んで、一番心躍り、嬉しい瞬間です。

私と版画の出会いは、北方小学校の先生方との出会いによるものでした。先輩の先生が指導された版画の作品の素晴らしさや迫力はもちろんのこと、制作の過程がとても教育的で素晴らしいと思いました。何もわからない私に、先輩方がまさに手取り足取り教えてくださいました。それ以来、毎年版画に取り組んでいます。

2013年度には、東与賀小学校の子どもたちと「東与賀キッズゲルニカ」制作に取り組みました。ピカソのゲルニカと同じサイズ、ベニヤ板18枚分の巨大な木版画です。私は、果たして本当にできるのかどうか不安でした。しかし、子どもたちは「やる!」と言いました。同学年の若い二人の先生方も「子どもたちとやってみたいですよ!やりましょう!」と言ってくださいました。みんなの情熱と力を結集してついにゲルニカは完成しました。

2014年度には、有明海の生き物やシチメンソウを守り伝えたいという思いから、子どもたちは、ベニヤ板6枚分の木版画を制作しました。この作品にも、子どもたちと先生方の熱い思いがこもっていました。

版画はとても大変ですが、みんなで取り組む喜び、できた時の達成感は、他の物にはかえがたいものがあります。

子どもたちと、先輩方と、同じ熱さでがんばってくれる同僚に恵まれたからこそできたことだと、今、改めて感じ、心から感謝しています。この熱さを伝えていけたらいいなあとと思っています。



初任者としての1年を振り返って

H18卒 神埼支部

富崎佳邦

私は、平成26年4月に初任者として神埼市立千代田中部小学校に赴任し、無事に1年間を終えることができた。昨年1年間で、教育というものがどれほど気を遣い、難しいものであるかということ、また、子どもたちと喜びを分かち合え、ともに成長できるこの職業の素晴らしさを感じる事ができた。初任者としての1年間で、日々の授業をどれだけ興味を引くものにするか、保護者対応の難しさ、良い学級の雰囲気づくりなど多くのことを学んだ。

昨年の1年がうまくいったのも、明るい職員室と、周りの先生方の支えがあったからだと思っている。私の学校の職員室は明るく笑顔があふれており、なんでも話しやすい雰囲気がある。困った時には親身になり相談ののってくれ、アドバイスをくれる先輩方がたくさんいる。特に、昨年は初任研の指導の先生と同学年の先生に指導していただく機会が多くあった。子どもたちとの接し方や授業の組み立て方など教員としての基礎・基本を教えていただいた。授業の展開で悩んでいたら、単元の流れについて教えていただいたり、教材を貸していただいたりした。また、悩みがある時はいつでも相談に乗ってくださった。私の意見を取り入れ、陰でサポートして下さることも多かった。また、管理職の先生方には、一人前の教員になれるよういろいろな声かけをしていただいたり、労ってくださったりと、私を温かく育てていただいた。1年を振り返り、中部小学校で初任者として迎えることができ本当に恵まれていたと思っている。

今年度は6年生を受けもつことになり、私自身とても重責を感じているが、昨年の経験から学んだことを活かしてがんばりたいと思っている。若くして6年担任として活躍するチャンスをいただいたことにとても感謝している。このような経験ができたのも子どもたちや職場の先生方に支えられたからであると思っている。私は、その期待に応えるべく、最高学年の担任としての職責を全うしたいと思っている。



美しい日本語

S52卒 鳥栖・基山支部

西村孝子

平成27年3月、長いようで短かった教職生活を無事に終えることができました。たくさんの方々にお世話になり、家族の協力もあり、思う存分児童生徒たちと触れ合うことができ幸せであったなあと思うところでした。

さて、その中で最後の勤務地、鳥栖市立基里中学校で、ある時英語の先生から「校長先生、英語の前に日本語が通じないんですよ。」という悲痛な訴えを聞きました。「ええー！そうか、今の子どもたちは、活字離れ、読み書き苦手というけれどここまで…」と今さらながらに痛感しました。

ちょうどその時に、鳥栖市教育委員会から「平成28年度全市小中学校で『教科～日本語～』の開始に向けて、中学校の教科書編集に協力してくれないか。」との話がありました。「私のような国語力のないものに。」と思いましたが、取り組まざるを得ない状況で市内の中学校の国語の先生や主幹教諭の先生たちと格闘のすえ、また市教委の担当の先生や検討委員会の大学の先生方のご協力を得、ようやく2年間をかけて出来上がりました。編集を行っていくうちに、「先生、日本語ってやっぱり素敵ですね。日本の伝統文化って素晴らしいですね。」と編集委員のみんなも感嘆の声をあげるほどでした。

鳥栖市が「教科～日本語～」で目指している「豊かな日本語を身に付け、鳥栖市を愛し、次世代を担う鳥栖の子どもの育成」の中で、

- ①日本語で自分の意志を明確に表現できる言語能力
- ②日本語への愛情と日本文化についての理解を深める
- ③一人一人が自己意識を確立する

ことなどを身に付けさせたいという願いが込められています。早速、平成26年度から鳥栖中学校区で先行実施をされていますが、大好評で指導者もやりがいを感じ、児童生徒も「面白い！」と感じてくれているようです。

是非とも、「教科～日本語～」の充実した学習が繰り広げられ、「日本語、日本の伝統文化を愛する大人に成長してほしい」と一編集委員として、心の底から願っている次第です。

お問い合わせは、鳥栖市教育委員会へ！



後出し負けジャンケン

S60卒 県庁支部

大石浩城

私は以前、人権・同和教育の担当者になって間もない頃、ある研修会で、「後出し負けジャンケン」なるゲームを体験しました。これは、その名のとおり、相手よりも後から出すジャンケンですが、その際に必ず負ける手を出さなければならないというのがルールです。後から出していいのだから簡単なことだと思いきや、これがなかなかうまくいきません。「ゲー」には「チョキ」を、「チョキ」には「パー」を…と頭では分かっているのに、手の方はついつい相手に勝ちにいてしまいます。慣れもあるのですが、無意識のうちに他人に勝ちたいという心理が働いていることを実感させられました。

頭では分かっているのに、いざとなると…。こういうことは、他にもいろいろあります。例えば差別の問題です。差別はいけない、差別はしない。そんなことは当然だと思えばかりで、実は深く考えずに、分かったようなつもりになっていただけなのではないか、と自分自身を振り返りました。

このジャンケンゲームを通して、長年の習慣から抜け出すことの大変さ、そして行動に移すことの難しさと大切さを思い知らされました。実際に行動を起こしていかなければ何も変わらないし、変えられません。

さて、今の私はというと「負けるが勝ち！」と思い返してみたり、また一方で「何で勝ち負けでしか物事を考えられないのかな？」と思い直してみたり連続です。しかし、あの日の研修会の最後に、参加者の一人が言われた「とっさには戸惑って、できなかったことでも、ゆっくりと考えてからだ間違わずにできました。」という言葉大切に、目の前のことに向き合っていきたい、と思っています。



さけの戻る最南端の川、玉島川に!!

S53卒 旧東松浦支部
加茂律子

「大きくなって帰ってきてね。」

毎年3月の初めに、玉島小全校児童で約3万匹のさけの稚魚を放流しています。

さけは、北の海で獲れる魚なのに、どうして玉島川で放流をするのだろうか。不思議に思い調べてみると、昭和30年代には、天然のさけが何十匹も産卵のために戻ってきていたことがわかりました。水の汚れが原因なのか、戻ってこなくなったそうです。「昔のようにさけの戻る川にしたい。」平成8年に稚魚放流が始まりました。福岡県の遠賀川でも放流が行われていますが、玉島川が最南端だということもわかりました。

放流した稚魚は、玉島川を下り海流に乗って北上します。オホーツク海、北太平洋、ベーリング海、アラスカ湾を回遊し、プランクトンや小魚をたくさん食べ、60cmから1m位に育ちます。大きく育ったさけは、産卵のために、生まれた川に戻るのです。これを母川回帰というそうです。

昨年の11月には、約70cmのさけ4匹が目撃されました。4年前に放流されたさけが、冒険の旅から見事戻ってきたのだと考えると、壮大なロマンを感じます。

「陸上の生き物は1匹見たら30匹。さけも目撃された以上に戻ってきているはず!!」と、河川美化の会の皆さんの努力は続きます。「あきらめてしまったらそれで終わり。努力を続けることで、きっと夢に近づき夢は叶う。」と、子どもたちに伝えてくださっています。

玉島川の澄んだ水は、玉島っ子の自慢です。美化の会の皆さんと共にこの清流を守り、たくさんのさけが安心して産卵に戻ってくる玉島川にしたいと思っています。



▲祈りの心をこめて稚魚を放流する子どもたち▲



ちょっといい話

S47卒 三養基支部
橋本泰博

定年退職後の一番の趣味は、相変わらず鳥撮り(バードウォッチング)だ。

僕の場合、野鳥の撮影のために、九州の各県のみならず、北海道とか南の島とかに出かけることも多い。どこそこに珍しい鳥がいると聞くと、矢も盾もたまらなくなってしまう。それに、毎日が日曜日なので、いつでも大丈夫というのがまた困ったものだ。

そういう風にして出かけた先で、色んな人に出会ったり、おもしろい出来事に遭遇したりするのも楽しみの一つになっている。

鳥撮りの朝は、いつものことではあるが、やたら早く目が覚める。まるで小学生の遠足みたいで、我ながらおかしくなる。

その日も、タイマーより2時間も早く目が覚めてしまった。いまさら眠れないので、暗い内に家を出たら、なんと、暗い中に現着してしまった。山間部なので辺りは真っ暗。

あまり暗いのは嫌なので、近くの交差点そばの空き地に駐車して、信号機のわびしい光の中で夜明けを待った。県道を、やまなみハイウェイが横切る交差点だった。

ここで日の出を待っている時、図らずも日本人の良さを知った。

夜明け前で、山間部の寂しい所なので、通る車はほとんどない。また、辺りに家もなく真っ暗なので、接近する自動車があれば、ライトは遠くまでははっきりと見える。しかも、山の中の信号なので、誰も見ていない。

こんな状況なのに、通りかかった車は、みんな信号を守って通行した。県道側の信号が感應式なので、一時停止して青信号を待たなければならない。県道を来た自動車は、信号無視しやすい状況なのにも関わらず、信号無視の自動車は1台もなかった。我らが同胞はいいなあ、しみじみ思った。

こんなこともあるので、鳥撮り旅行は、当分の間やめられそうにもない。





やばいですね

H25卒 武雄支部
長 岡 諒 太

今年度、新規採用で北方小学校に赴任しました。右も左もわからず、校長先生をはじめ先生方に、そしてかわいい5年生の子どもたち29人に「びびり鍛えられて」います。そのような中、ひと月ほどが過ぎ、「最近の子どもたちだなあ。」と思える特徴的なことがありました。

ある日の理科の授業。単元の導入として、ある写真を備え付けのスマートボードの画面に映しました。児童からは「わー！すごい！」「こんなの初めて見た！」「先生、他の写真は？」

よしよし。予想通りの、いや、予想以上の反応が返ってきました。まだまだ盛り上がる教室内。

するとある児童が大きな声で一言。

「この写真やばい！」……やばいってなんですか？

「やばい」とは元々不都合な様子を表す言葉であり、90年代から良し悪しに関わらず、若者の間で使われ始めたとのこと。この、良し悪しに関わらず、というのが曲者で「先生、やばいやばい！」と子どもが慌てた様子で駆け寄ってきたら、誰でも少し身構えてしまいます。しかし、話を聞くとその実、なにやら大きな虫がいたとか、消しゴムが二つに割れたとか、それほど大変な事態でなかったりします。そうかと思えば誰かが怪我をしたらとか、何かをなくしたらとか、実際に大変だと言えることもありました。

ここで困ってしまうのが「やばい」と一言だけ伝えられても、こちらにはそれがどう言った意味合いを持つのかわからないことです。「この写真やばい」だと、写真に感動したのか、面白味を感じたのか、はたまた恐怖を感じたのか、見当もつきません。やばいの持つ意味合いが多すぎるのです。

担任している学級では、授業中にやばいという言葉を使わないよう指導しています。それは何も、やばいという言葉に嫌悪感を抱いているから、というわけではありません。子どもたちの表現の狭まりを危惧しているからです。最近のテレビのCMでも「若者はなんでもやばいやばいって。それこそやばいよね。」とあります。やばいと言っておけば、相手に伝わろうが伝わるまいが、何かを表現した気分になるようです。

以下は、ある日の給食時間での会話です。

「テストの点数どうだった？」「やばかったです。」
これはどちらの意味だったのか…。
やばいですね…。



教員生活を振り返って

H7卒 江北支部
久保田 淳

今年で、教員生活19年目を迎える。振り返ると、決して順風満帆だったとは言えないが、教え子たち、同僚の先生方、保護者や地域の方々、家族に支えられ、充実した生活を送ってきたように思う。

これまで高学年を担当することが多く、6度卒業生を送り出してきた。ときどき卒業生から連絡があり、それぞれに自分の夢に向かって進んでいる様子に、自分もがんばろうと励まされる。最初の卒業生たちは、年に数回同窓会を開いている。その席に呼んでもらうのだが、初めてその会に出席したとき、立派に成人した教え子を見ながら、胸が熱くなったことを思い出す。教員をやっていたよかったと心から思った瞬間だった。

最近、教室で子どもたちを前に思うことは、学習面や生活面などで、様々な課題を抱えた子どもたちが次第に多くなってきているように感じる。また、生活経験に乏しく、友達や大人に頼りきりの子どもも少なくない。きっと多くの先生方が感じていらっしゃるのではないだろうか。自分自身、担任をしている子どもたちに対して、これまでの経験が通用しないということが多々あり、どうしたものかと日々悩んでいる自分がいることに気づかされる。学校の担う役割がさらに大きくなってきているように感じている。

さて、今年、大学院生として再び母校佐賀大学の門をくぐることになった。学校現場を離れるとは微塵も思っていなかったが、研修を受ける機会をいただいたことに感謝をしている。自分の悩みは多くの教師が抱えている悩みだと思う。これからの2年間でその悩みが少しでも解決できるような研究ができればと願っている。そして、その成果を現場で生かせるように励みたい。

若い頃、先輩に言われた「学ばなくなったら教師は終わり」という言葉を今更のように思い出している。





早いもので …

S 55卒 伊万里・西松浦支部 前 田 弥 三

昭和55年4月、山代東小学校5年2組43名の担任として、教職生活がスタートしました。親ほども年の離れた多くの熟練の先輩方に囲まれていました。

1年目の夏頃だったでしょうか、大先輩に「先生も『ゆーほーかい』に入りますか?」と声をかけられ、円盤のユーフォーと勘違いしたのは事実です。

早いもので、あれから35年が経過しました。教職人生も残り少なくなった今、3度本校に勤務させて頂いています。教え子が親となり保護者会の役員をしてくれています。教え子の子が多く在籍しています。まるで、おじいちゃん的な気分です。児童数は激減していますが、子どもらしい子ども感のあふれる児童の多い学校です。地域も学校を強く支援してくださっています。

私自身は、教職生活も残すところ3年を切ってしまいました。がむしゃらに前に進むことしか考えなかった若い頃と比べると、パワーがしぼんでし

まった感じもしますが、物事を余裕を持って見ることができるようになったような気もしています。

これから数年先、熟練の教師が現場を去り、若い教員があふれる時代がやってくる。今、何かの手立てが必要ではないか!と誰かが言ってました。

これからの学校教育を支える若い先生方には、ますます期待が高まります。私は、若い先生方に、次のようなことを心の片隅にでも持って頂けたらと思います。

若さは何よりも宝です。その宝に、時には、ふと立ち止まり、ひっそりと咲いている野の花に気づく感性をプラスしてください。それと、多くの方々から力を頂き、今の自分が存在できています。「お陰様で」という感謝の気持ちも大切にしてほしいものです。

早いもので、いつの間にか、教職に関するうんちくを述べるような歳というか、立場というのか、そういう年頃になっていました。



「チーム有東」 苦楽を共に

S 63卒 白石支部 石 橋 佳 樹

5月18日(月)、職員室で級外の先生方と給食を食べていると、運動会実行委員会の6年生が中を覗き込みながらこう言った。「失礼します。運動会のスローガンが決まったので先生方にお知らせに来ました。入ってもいいですか。」と…。そして私たちの前に来ると、開口一番、「今年のスローガンは、『チーム有東 みんなで協力して優勝めざし 一生けん命がんばろう』に決まりました。ご協力ありがとうございました。」と、実にすがすがしい表情だった。スローガンを完成させたという充実感もあっただろう。また、さらなる運動会に向けての準備・計画に向けての決意表明とも読みとれた。

このスローガンの冒頭にある「チーム有東」は、今年度本校が一番の目標にしているキーワードである。ここで言う「チーム」とは、楽しいことや成功した喜びを分かち合うことはもちろん、苦しいことや解決が困難と思われる課題には、「みんなで顔

を突き合わせて向き合う」「どうしたらいいかを一緒に悩み、解決に向けて最大限の努力をしようとする」姿だ、ととらえている。

校長は、常々、こう口にする。「いい学校とは、『課題がない学校』ではなく『課題を共有し協力・努力を惜しまない学校』である。」と。私も同感である。その意識が着実に児童に浸透しつつある。たいへんうれしく思う。素敵な有明東小学校の「チーム」づくりに向けて、児童・職員・保護者・地域、みんなが笑顔で手を取り合う学校づくりに向けて、私も尽力したいと思う、今日この頃である。





永遠の18歳？

H22卒 佐賀市東部支部 山本 亜衣

文化教育学部国際文化課程を卒業して、はや4年が経ちました。今、職員の給与や学校予算を扱う事務職員として、小学校に勤務しています。子どもたちの成長を間近で見ることができ、とても幸せを感じています。

大学時代は、国際文化課程の仲間と集い、チーム名を作ってあちらこちらへ出かけ、某大学青春ドラマのような充実の4年間を過ごしました。その仲間は今、様々な職業に就き、佐賀に残っているのは私だけになりましたが、月に1回程度は、思い出の地へ行ったり、酒を酌み交わしたり（みんな1、2杯で出来上がりますが）と、仲のよさは相変わらずです。社会人5年目になった今でも、私が大学時代に未練があるのは、もしかすると、そのせいかもしれません。

ところで、「国際文化課程がなくなる」と聞いた時は、とても切なく、複雑な思いでした。というのも、私の場合、卒業した小学校の校舎が増改築、中・高の校舎は建て変わり、さらに、初任者で赴任した学

校では閉校にも立ち会いました。そういう訳で、国際文化課程の終了には、寂しさと同時に、もしかしたら私のせいかもしれないと、少しドキッとしているところです。

さて、そんな私も、苦手な数字や法律を相手に、行政職員／教職員として精進する日々を送っています。小・中学校の事務職員は各校に1名配置がほとんどです。現在は、研修制度や管理職制度が整備され、共同実施という、近隣校の事務職員が事務を協同する体制が定着していますが、少し前までは、そのような制度のない、孤独な状況下の職種でした。そのため、ベテランの諸先輩方の口癖といえば、「おいどんの頃は研修もなく、何でん一人。お前たちは恵まれと〜。」というセリフ。そんな「今は昔」話を聞き、諸先輩方の築き上げられた現在のありがたみを説かれる度、月に1回の悪しき習慣が頭をよぎる私は、「仕事ばもっとがんばらんといかん」と、大学時代への未練といまだに戦う日々なのです。



前進する佐賀大学

S59卒 旧白石支部 大川内 加代子

「大学を卒業してから、もう30年以上経ったのね…」と感慨深い思いで、大学時代を思い起こした一日でした。

昨年10月18日に佐賀大学で開催された、「第3回佐賀大学ホームカミングデー」に親友と一緒に参加し、懐かしさでいっぱいになりました。

かつての学び舎は、目を見張るほど素敵な姿に生まれ変わっていました。特に、「佐賀大学美術館」は、明るく近代的な佇まいで、大学内にいることを忘れてしまうほどでした。この美術館は、佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年記念事業として建設されたこと、そして、国立総合大学では初の美術館であり、カフェもあるという説明を受けました。

また、「学生発表」の部で上映された、文化教育学部4年生の上田夏菜子さん制作の「鍋島化け猫騒動」の完成度の高さに脱帽しました。この作品

は、「第2回佐賀大学コンテンツデザインコンテスト」で、学生部門最優秀賞・サガテレビ賞受賞作品だそうです。さすが受賞作品であると納得しました。このように目的をもって生き活きと学ぶ後輩の姿に、感銘を受け、元気とやる気もらいました。

発表後、記念写真撮影も行い、おしゃれな「佐賀大学美術館」で、懇親会。初対面であっても、「佐賀大学卒業生」というだけで、すぐに打ち解けて、楽しく語り合えました。

今回、「第3回佐賀大学ホームカミングデー」に参加させていただいたおかげで、前進する母校を目の当たりにし、嬉しくなるとともに、「私も前進していこう」と心に誓うことが出来ました。

最後になりましたが、「ホームカミングデー」のお世話をしてくださった皆様にお礼を申し上げますとともに、大切な母校「佐賀大学」が、ますます発展されることを祈念致しております。



わたくし、ただ今、4歳

S50卒 佐賀市北部支部 江口 美 好

2011年3月をもって教職を退職し4年が過ぎ去った。退職にあたって考えたことは、まず、定年退職とは様々な軛くびきから解き放たれること、目に見えない軛からの解放である。よって、少しはワガママに生きてもよくはないか。

次に、「何もすることがない」は困ったことではない。「何もすることがない」という境遇を「悪くないな」と肯定して、思う存分無為に過ごせばいい。それが「悠々自適」ではないかということであった。

ところが、現実はなかなか…。

定年後、家に居場所がないと嘆く「定年難民」が増えているとの話題を耳にしていたが、定年後を現役時代の休日と同じような過ごし方をしている、難民になるのは目に見えている。だから、そのような悲劇は避けたいと思っていたが…。

そのような時、私の第二の人生の指針に参考になると思われる文章を目にした。それは、全国亭主関白協会という「真の亭主関白」をめざす男たちの組織の指針である。真の亭主関白とは「ナンバー2」のことである。一番は天皇。次は関白。歴史上そう

なのだから、自分たちもこの正しい立場をめざそうというわけである。定年後は妻が上司。

よって「非勝三原則」（非核三原則ではない）を胸に、「愛の三原則」を実行すれば定年難民になる心配はない。

「非勝三原則」とは、

- 第一 「勝たない」
- 第二 「勝てない」
- 第三 「勝ちたくない」

「愛の三原則」とは、

- 第一 「ありがとう」とためらわずに言おう。
- 第二 「ごめんなさい」を恐れずに言おう。
- 第三 「愛している」を照れずに言おう。

私の第二の人生は、4歳が過ぎたがなかなかできずにいる。言うは易し、行ふは難し。困ったものである。



伊万里・西松浦支部便り

平成26年9月6日（土）に宮尾正隆会長、竹下敬教事務局長を講師に迎え、総会・懇親会を開催しました。「有朋会の今とこれからのについて」のご講演の中で、宮尾先生からは、28年度からの「学部改編の話題」を中心に、竹下先生からは、「有朋会の現状と今後の展望」についてたいへん有意義なお話をいただき、40名の参加者からは随所に感嘆の声があがっていました。また、宮尾先生・竹下先生にも引き続きご参加いただいた懇親会には、31名の参加があり、現職会員・退職会員が先輩後輩の垣根を越えて、それぞれの思いを語り合い、会場に多くの笑顔や共感の輪が広がりました。

今後も有朋会の隆盛を図るために、総会・懇親会を中心に多くの会員の参加を期待しながら、支部運営に邁進していく所存です。（支部長 吉村 清美）



藤津・鹿島支部便り

藤津・鹿島支部では、7月27日に鹿島市内の「家督屋」において平成26年度の総会・懇親会を開催しました。本部から吉木副会長様、山口副会長様にも参加していただき親交を深めることができました。

ところで、嬉野市では昨年度から、全ての学校でコミュニティスクールに取り組んでいます。地域コミュニティとの連携で、地域の退職会員の方々にも、生活科や総合的な学習などの学習支援にご協力をいただき、様々な体験活動が、児童の豊かな心の育成につながっています。

(支部長 高上 恵子)



関西支部便り



平成26年8月3日に開催された「葉隠れ会」の報告をします。

大阪市地下鉄谷町四丁目改札口にて集合し、大阪市周辺の12か所を見学し、大阪砲兵工廠関係から、難波宮跡や竹内街道まで史跡に触れた一時でした。

これからも、「葉隠れ会」の会合を通して、第二の故郷の史跡などを紹介できればと考えております。

天満橋の中華料理「錦城閣」にて昼食・歓談して、今回の会合は、阿倍野辺りということで終わりました。

次回は、平成27年7月20日(海の日)を予定。多数のご参加をお待ちしています。

(支部長 猿渡 千歳)

キャンパス婚のお誘い

農場での稲刈り体験 & バーベキュー

【日時】 平成27年10月17日(土) 9:00～16:00 (雨天決行)

【対象】 20～40代の独身男女
(佐賀大学同窓会員 & 同窓会員から紹介された方)

【定員】 男性15名、女性15名 *先着順

【費用】 2,000円(予定)

【場所】 佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センター
住所 佐賀県佐賀市久保泉町下和泉 1841
TEL. 0952-98-2245

【申込方法】 以下をご記入のうえ、メール又はFAXにて
8月31日(月)までに送信してください。

- ・名前(ふりがな) 〒自宅住所
- ・携帯電話番号 性別
- ・勤務先 PCメールアドレス 生年月日
- 〈同窓会員〉 学籍番号又は入学年
- 〈同窓会員外〉 紹介者の学部と名前

【申込み・問合せ先】

佐賀大学同窓会事務局(竹下)
メール: dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
FAX: 0952-25-5700
TEL: 0952-23-1253



本 部 便 り

総会・懇親会は？

期日 平成27年8月29日（土）

場所 「マリトピア」

受付……13：00～
 総会……14：00～14：30
 講演会……14：40～15：40
 懇親会……15：50～17：50

- ・会費 3,000円 各学校委員や支部長へ申し込む。
 - ・本部へはFAX（0952-25-5700）で。当日申込可。
 - ・会費は学校委員に前納するか、当日受付にて。
- ※講師を招聘しての講演会もあります。
 ※今年度のお世話担当は、昭和60年度卒の皆さん。

追悼会は？

期日 平成27年11月15日（日）

場所 「願正寺」

受付……9：30～
 追悼会……10：00～11：00

- ※明治24年「総集会」として発足し、本会最大の年行事として継承。
- ※明治26年当時の全会員128名の浄財で願正寺の一隅に石碑を建立し、全会員参加による追悼会が開催され現在に至る。

平成27年度 有朋会 行事予定

月	日	曜日	本 部 行 事	備 考
1	水		教職員異動新聞発表	異動報告は10日まで
4	14	火	第1回正副会長会 (18：00～)	代議員名簿締切22日
	18	土	第1回本部役員会 (10：00～)	採用試験支援開始15日
5	16	土	第1回支部長及び事務担当合同会議 (10：00～)	採用試験支援2次 (21日から個別指導1)
	22	金	会報34号執筆者締切り (2月14日原稿依頼)	
	4	木	会報34号 編集会議 (2回校正)	
	10	水	60卒世話役の依頼	
6	12	金	各支部会報部数調査	
	18	木	各部会実施予備日	※各部会で決定
	24	水	60卒世話役代表者の打ち合わせ (19：00～)	
7	1	水	喜寿、還暦、感謝状 締切	採用試験支援3次 (13日から個別指導2)
			本年度の物故者、喜寿、還暦対象者の確認依頼	退職含む会員調査締切
	8	水	会報34号 発送開始	
	9	木	第2回 正副会長会	
	17	金	喜寿祝賀該当者、感謝状受賞者決定	
	27	月	60卒世話役の打ち合わせ (19：00～)	
	31	金	会員数調査 締切 会費＝月末締切	現職の会費納入締切
8	3	月	懇親会参加申し込み 締切	採用試験支援4次 (3日から個別指導3)
8	5	水	学部意見交換会(学部課程代表) (18：30)	
	29	土	総会・懇親会「マリトピア」 (14：00) 直前打ち合わせ：本部・60卒 (12：30集合)	採用試験支援5次 (17日から個別指導4)
9	17	木	就職支援講座反省会 (12：00～13：00)	
	25	金	平成27年度追悼対象者報告第1次締切	退職会員の会費納入締切
	1	木	追悼会案内の発送	
	8	木	第3回正副会長会 (18：00～)	
10	17	土	第3回キャンパス婚(全学同窓会共催)	佐大アグリセンター
	19	月	平成27年度追悼対象者報告 最終締切	
	24	土	本部役員会 (10：00～)	
	5	木	文化教育学部世話人会 (19：00～)	
11	14	土	願正寺との打合せおよび前日準備 事務局	佐賀県青春寮歌祭
	15	日	追悼会(願正寺) (8：30～11：30)	各支部より3名程度
12	2	水	キャリアデザイン講師(若手) (10：30～12：00)	経済5番教室
	3	木	第4回正副会長会 (18：00～)	
1	13	水	学部意見交換会(学部課程就職担当) (18：00)	未納会費の納入締切
2	13	土	第2回支部長及び事務担当合同会議 (10：00～)	
3	23	水	佐賀大学卒業式(10：00～)・祝賀会 (12：30～)	
3	30	水	有朋会監査 (10：00～)	

会費納入へのお願い

※会費納入は、基本的に下記の要領で！

特別会員（師範学校卒業）の方は免除。
会報が必要な方は、校区小学校の学校委員に連絡を。

【1】県内学校勤務の会員は？

学校単位で徴収し、支部の事務局へ納入。

【2】県内の退職会員は？

校区の小学校に持参するか、同封伝票で。
金額は地区により異なるので確認を。

【3】県外会員の方は？

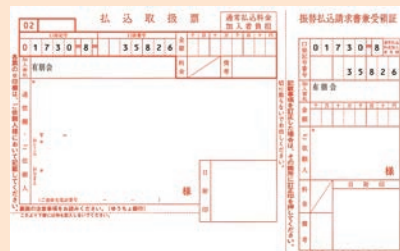
各県の事務局へ納入。年会費は、1,300円。
福岡県は支部費を含み、2,300円。
新規納入の方は同封の伝票でも可。

【4】卒業後6年経過の会員は？

県内在住者は、上記1、2の方法で。
県外在住者は、別添振込み用紙で、郵便局の口座に納入。

【5】払込納入を希望される方は？

- ・ゆうちょ銀行や郵便局ATMで。
- ・口座番号 0-1730-8-35826
- ・加入者名 「有朋会」
- ・払込取扱票は、「赤」の用紙をお使いください。
- ・できるだけ早期に納入を済ませましょう。



「有朋」 34号

発行日 平成27年7月1日(水)
 発行者 有朋会会長 宮尾正隆
 編集者 編集部長 山口久美子
 事務局 事務局長 竹下敬教

住所 〒840-8502 佐賀市本庄町本庄1
 佐賀大学菱の実会館 TEL 0952-23-1253
 E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
 HP http://dousou.ext.saga-u.ac.jp